

## 募集!!

### 小児がんの子どもきょうだいたちのキャンプ 「富士山にアタック!!2016」

公益財団法人 がんの子どもを守る会  
事務局長 石川 幹雄

本年も、小児がんの子どもきょうだいたちのキャンプである「富士山にアタック!!2016」を開催いたします。小児がんを経験した子どもたちや家族を対象としたキャンプやイベントは全国各地で展開されるようになりましたが、きょうだいたちは自分と同じ経験をした者同士の出会いの場が少ないのが現状です。そこで当会では、2001年より、小児がんの子どもきょうだいを対象とした富士山キャンプを始め、今年で16回目となります。

本キャンプは、小児がんの子どもをきょうだいに持つという同じ仲間と出会い、一緒に過ごす場を提供しています。また、参加したきょうだいたちがそれぞれのペースで富士山にチャレンジします（富士山登頂のコースはありませんのでご了承ください）。キャンプには、医師やソーシャルワーカーの他、多数のボランティアが同行いたします。あわせて、富士登山には登山の専門家にも同行いただいています。開催の概要は以下の通りです。

#### 【開催の概要】

- ◆主催：公益財団法人がんの子どもを守る会・毎日新聞社
- ◆日時：2016年7月30日（土）～8月1日（月） \*雨天決行
- ◆場所：河口湖周辺（東京駅集合、解散）
- ◆参加資格：小学校1年生以上の小児がんの子どもきょうだい  
（応募の状況によってはご希望に添えないこともありますのでご了承ください）
- ◆参加費用：15,000円程度（予定）
- ◆参加申込締切日：2016年5月9日（月）必着



なお、このイベントでは、「小児がん」という言葉が用いられますことを了解の上、お申込みください。

また、共催しております毎日新聞の取材が入る予定です。取材や写真の掲載可能な方に限り、お願いをさせていただきます。

#### 【お問合せ／申込み】

〒111-0053 東京都台東区浅草橋 1-3-12 公益財団法人がんの子どもを守る会 富士山にアタック!!2016 係  
電話：03-5825-6312 Fax：03-5825-6316 メール：nozomi@ccaj-found.or.jp

<参加ご希望の場合は、申込み書請求用紙を当会までお送りください>

#### 「富士山にアタック!!2016」申込書 請求用紙

氏名：

送付先住所：〒

参加申込書：参加者用（ ）部

※申込書の締め切りは2016年5月9日（月）必着ですので申込書請求の際にはご注意ください。

ご記入いただいた個人情報、富士山にアタック!!2016に関わる連絡のみに使用いたします

# 昨年の富士山にアタック!!2015 の新聞記事

2015年7月27日(月) 毎日新聞 朝刊

小児がんの兄弟姉妹が  
いる子供が26日、  
山梨県の河口湖町で  
かの富士山に挑戦し



た、「富士山再生キャン  
ペーン」富士山にア  
タック(毎日新聞社、  
公益財団法人がんの  
子どもを守る会主催、あ  
いおいニッセイ同和損  
保、全日本社会貢献団  
体機構など協賛)の一  
環、15回目。

### 小児がん患者家族が挑戦



ガイドにコツを教わりながら  
富士山の岩場を登る子どもら

小中学生の11人は  
午前8時前に河口湖を  
出発。8合目の山小屋  
まで登り、午後1時  
過ぎ、山頂(3776  
メートル)を目指し、  
午後3時過ぎ、山頂  
に到着した。初登り  
の子は、昨年、山頂  
に上った経験がある  
が、今回は初めてだ。  
「感動が、言葉に

### 季節刻々 今昔

坪内祐典

昨日、パセリや刺し身のツマを  
残す習慣に触れたが、今日の旬は、  
パセリを残さず食べたことを祝  
っている。旬の主人公が子どもだ  
としたら、パセリを食べたことに  
成長の証しを思っている。もし主人  
公が大人だとしたら、旺盛な食欲  
に健康ぶりを感している。パセリ  
は一年中あるがなぜか夏の季節。  
夏の料理に涼味を添えるから？

加吉 みちよ

## 【特集記事】 2015年8月8日(土) 毎日新聞 インターネット版

### ◇富士山でまた会えた 患者の兄弟姉妹、登って意気投合

小児がんになった兄弟姉妹を持つ小中大学生ら11人が7月25～27日に、今年で15回目となる「富士山再生キャンペーン 富士山にアタック」(毎日新聞社、公益財団法人がんの子どもを守る会主催、あいおいニッセイ同和損害保険、子どもゆめ基金、全日本社会貢献団体機構など協賛)に参加した。山梨県富士河口湖町の民宿に2泊3日の日程で滞在し交流を深めながら、26日には富士山の5合目から8合目の山小屋「太子館」までの登山にも挑戦した。

風もなく快晴となったこの日、常に笑顔絶やさない2人の女の子と一緒に8合目を目指した。中学1年で埼玉県北本市の横堀花奈美さん(12)と横浜市の手塚はなさん(12)。ともに今回で6回目の参加となる。離れた場所に住む2人は、「1年に1回ここで会おう」と約束した親友だ。2人とも、勾配が急になった7合目以降の岩場も手を使いながら器用に登り、疲れた時も登山客と積極的にあいさつを交わしていた。

2010年、いずれも小学2年生の時に医師に誘われて初めて参加した。同学年の女子は2人だけ。それぞれ弟と妹が小児がん患者だった2人は、すぐに打ち解けた。手紙でやりとりを続けているが、会えば学校や趣味など話題は尽きない。横堀さんが「(病気のきょうだいを持つことの)気持ちが分かるから一緒にいると気が楽」と話すと、手塚さんもうなずいた。

中学生になり、横堀さんは吹奏楽部でホルンを担当。手塚さんはテニス部に入り忙しくなった。今回の日程では、横堀さんは吹奏楽部の練習、手塚さんはテニスの試合の日が重なり、参加するか否かを迷った。しかし、結局、お互いが「会いたい」と思い、富士登山を選んだ。

「やっぱり来て良かった」。下山後、2人の口から同じ言葉が出た。富士山でつながった友情はどこまでも続いていく。【藤淵志保】



「富士山にアタック」で8合目までたどり着き、喜ぶ参加者ら

=====